

# 「大阪はびきの医療センター建設基本設計」（概要版）

地方独立行政法人 大阪府立病院機構が運営する大阪はびきの医療センターは、建築後 40 年以上が経過し、老朽化が進んでいます。引き続き、先進性、専門性を発揮した政策医療を提供するとともに高度専門性を活かした地域の医療ニーズに応じていくため、現地建替え整備を行います。



石曳池側から見た新病院のイメージ



南東側上空から見た新病院のイメージ



南側から見た新病院の正面イメージ



外来ホスピタルストリートイメージ



病棟イメージ

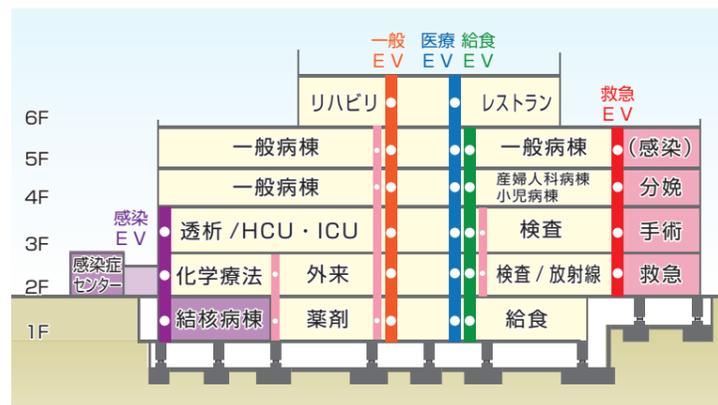
## 【設計コンセプト】

- 敷地の高低差を活かした明快なアプローチの実現**
  - 車両動線の分離／独立した救急動線の確保
- 感染エリアと一般エリアを明確に区分する建物構成**
  - 結核病棟の独立化
- 動線分離と機能連携の両立を図るゾーニング**
  - ワンフロア外来／4看護病棟
- 水と緑の潤いを最大限取り込む**
  - 石曳池に面する「はびきのガーデン」
- イニシャル・ランニングコスト縮減を図る計画**
  - イニシャルコスト縮減：建物の低層化、地形に合わせた掘削土削減など
  - ランニングコスト縮減：自然採光・通風、高効率・省エネ機器の採用など

## 【計画概要】

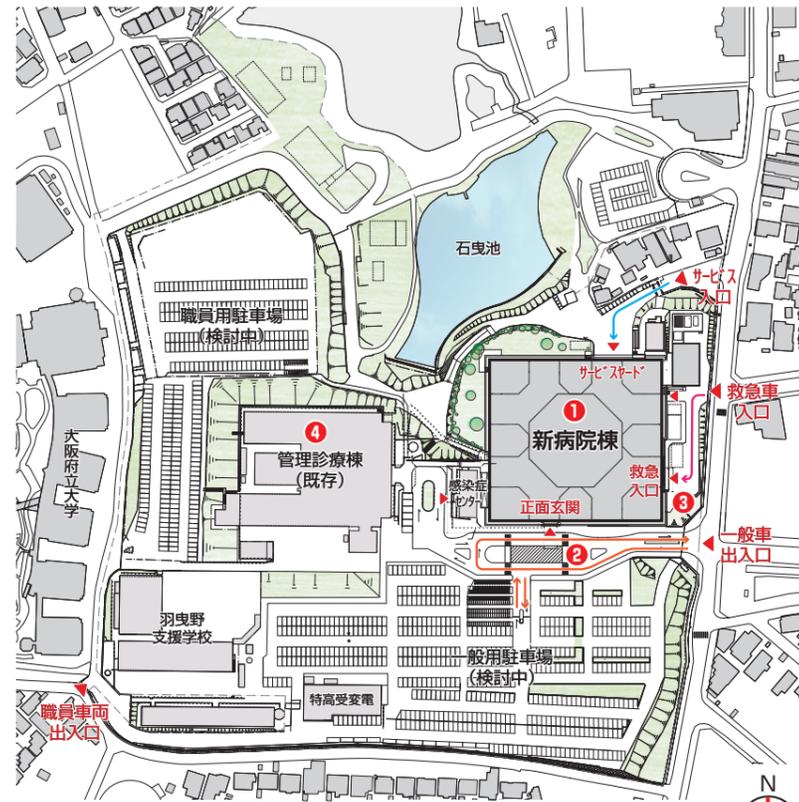
- 計画地：羽曳野市はびきの三丁目7番1号
- 敷地面積：約 8.8 ha
- 階数：地上 6 階 塔屋 1 階
- 構造：鉄骨造（免震構造）
- 延床面積：約 33,700 m<sup>2</sup>（新病院棟（サビスタド除く）及びリアック棟）
- 病床数：405 床（一般 354 床／第二種感染症 6 床／結核 45 床）
- 診療科：23 診療科（※今後の医療需要の動向を踏まえて柔軟に対応する）
- 竣工予定：2022 年度中（新病院開院）

## 【階構成イメージ】



## 【想定スケジュール（予定）】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
撤去工事 （研究棟・感染症外来棟等）		→				
実施設計・建設工事 一括発注		→	→	→	●	
撤去及び外構工事（検討中） （病棟、食堂棟の撤去及び駐車場整備等）					→	→



配置計画図

※駐車場（一般用・職員用）の配置については、今後検討していく予定です。

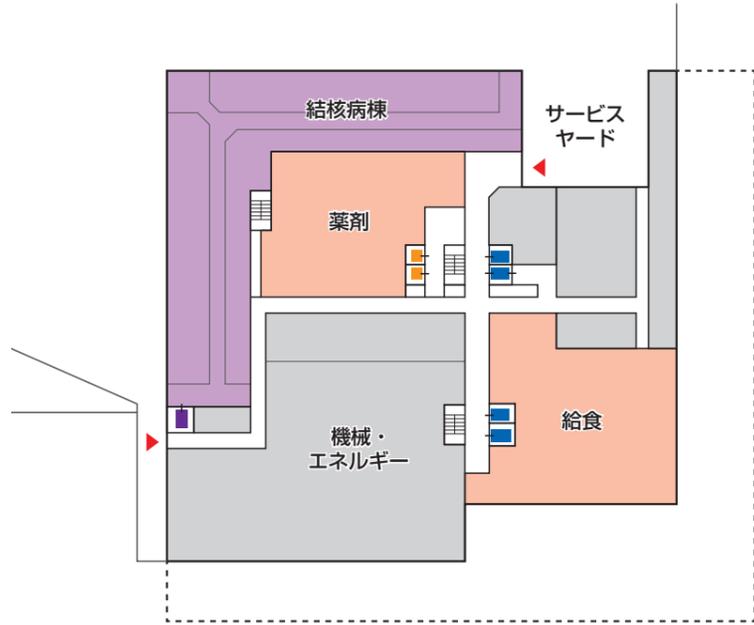
## 【配置計画】

- 新病院棟**
  - 新病院棟は既存研究棟の解体跡地に、6階建ての低層の建物として計画します。敷地内高低差（約 4m）を活かして、南側は 2 階で、北側は 1 階で地上と接する設計としています。
  - 新病院棟は、既存感染症センターと渡り廊下で接続させ、感染（結核）患者およびスタッフなどのルートを確認します。
- 車寄せ**
  - 新病院棟南側の正面玄関前に、大型車両が回転できる大型のロータリーを整備します。
- 救急ヤード**
  - 新病院棟東側の救急部門に救急車が迅速にアクセスできるように、東側前面道路に出入口を設け、救急ヤードを確保します。
- 既存建物活用**
  - 既存管理診療棟は倉庫等として継続利用を検討中です。
- 土地の有効活用**
  - 今後、病院敷地の一部の有効活用等についても検討していく予定です。

【各階平面計画】

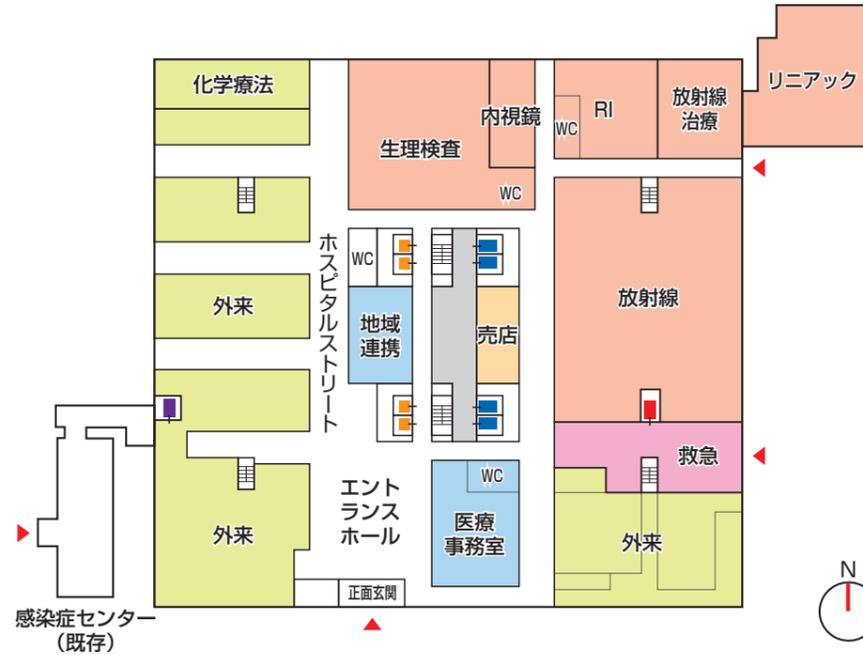
1階

- ・1階の北西部には、結核病棟を配置し、石曳池や周辺の緑を間近に感じることのできる計画とします。また、サービスヤードからの搬入を考慮し、薬剤、給食、機械・エネルギーなどの供給部門を配置します。



2階

- ・新病院棟の2階に「外来」、「救急」及び「放射線検査、内視鏡、採血・採尿、生理検査」を配置し、外来患者が上下階の移動なしで受付、診察から検査、会計まで済ませることができる「外来機能のワンフロア化」を図ります。



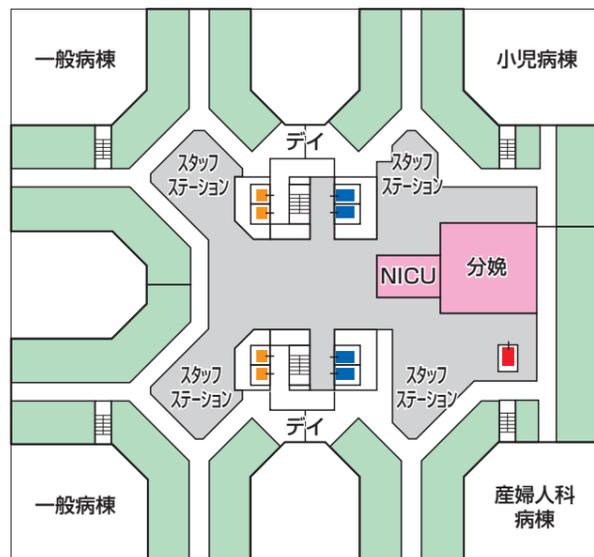
3階

- ・3階は高度集中治療エリアとして、手術、ICU、HCU、透析を設け、機能集約を図ります。その他のエリアは管理部門とします。



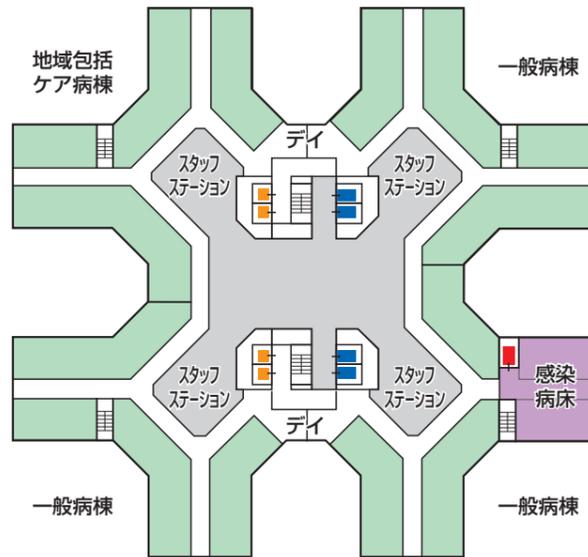
4階

- ・4、5階は病棟階とし、1フロアに4つの病棟を配置します。
- ・4階には、外科系病棟×2、産婦人科病棟、小児病棟に加え、分娩エリアおよびNICUを配置します。



5階

- ・5階は、内科系病棟×3（第二種感染症病室6室含む）と、地域包括ケア病棟を配置します。



6階

- ・6階は、入院患者を中心としたリハビリテーションおよびレストラン、機械室、電気室を配置します。

